

研究分野のキーワード：臨床心理学，子どもと家族への支援，パーソナリティ・アセスメント，
トラウマ・ケア

研究紹介

私の主な専攻は臨床心理学です。臨床心理学とは、見る・聞く・考える・覚える・思い出す・話す・喜ぶ・悲しむ・悩むなど、人の心の働きや人の行動のメカニズム、また人の誕生から死までの生涯発達のプロセス、集団や組織の中でどのように人は影響し合うかなどを、実験や観察、調査、面接を通して科学的・実証的に明らかにした心理学の理論や方法に基づいて、専門的な支援や研究を行なう学問です。

私は、その中でも、人はどのようなパーソナリティを持っているかを、絵を見たり、絵を描いたりするロールシャッハ法や描画法などの心理検査を通して理解し、どのような支援がその人に役立つのかを考えたり、また人を支援する際に、心理的な支援を心理療法と呼びますが、ある心理療法がどのような人に役に立つのかを研究しています。

特に、虐待やいじめなどにより、心の傷ついた子どもと家族への心理療法を専門としています。身体のけがと同様に、心のけが（トラウマと呼んでいます）もその子どものけががどのようなけがなのかを心理的な理論に基づいて理解し、子どもの回復力を生かしながら、専門的なケアをしていきます。その専門的なケアを、トラウマ・ケアと呼びますが、トラウマ・ケアが終了した時点で、そのトラウマ・ケアが、その事例でどのような効果があったのかを振り返って分析する事例研究を積み重ねています。それによって、どのようなトラウマ・ケアが、どのような心の傷に効果があるのかを研究しています。

最新の知見では、身体心理学という専門分野において開発された心理療法がトラウマ・ケアに効果のあることがわかってきました。今までのカウンセリングや心理療法は、主に、対話によって人の心を分析し、解釈を加えて解決を求めることが多かったのですが、そのトラウマ・ケアは、身体心理学における理論に基づいて、身体を通して自分自身を理解していくプロセスをサポートしていく心理療法です。実際に、心の傷を抱えながら生活をしている子どもや女性に、この心理療法を提供して効果を研究しています。

さらに、虐待やいじめなどの暴力被害を受けた子どもや女性のための支援を行っている現場の支援者と協力しながら、暴力を受けると、被害者にどのような心理的な影響が現れ、家族や地域社会などのコミュニティに波及していくのか、またどのような自分自身や支援者によるケアが必要なのかということを知的に理解することを促す心理教育の研究を進めています。